



南房総のハズシ

[発行]
南房総教育事務所
令和6年 5月8日
第5号
文責 学力向上班

なんだか授業が
うまくいっていない
気がする…。

もっと子どもたちが
主体的に考える授業
がしたい！



子どもたちの学力を高め
るためには、どんな授業をす
ればいいのか。

そんなあなたに！

授業力の向上、授業改善のために

千葉県教育委員会では、「ちばっ子『学力向上』総合プラン」(学びの未来づくりダブル・アクション+ONE)において、児童生徒の学力向上を目指し、Action2では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践力の向上を推進しています。

Action2

教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

実践モデルプログラム活用率100%



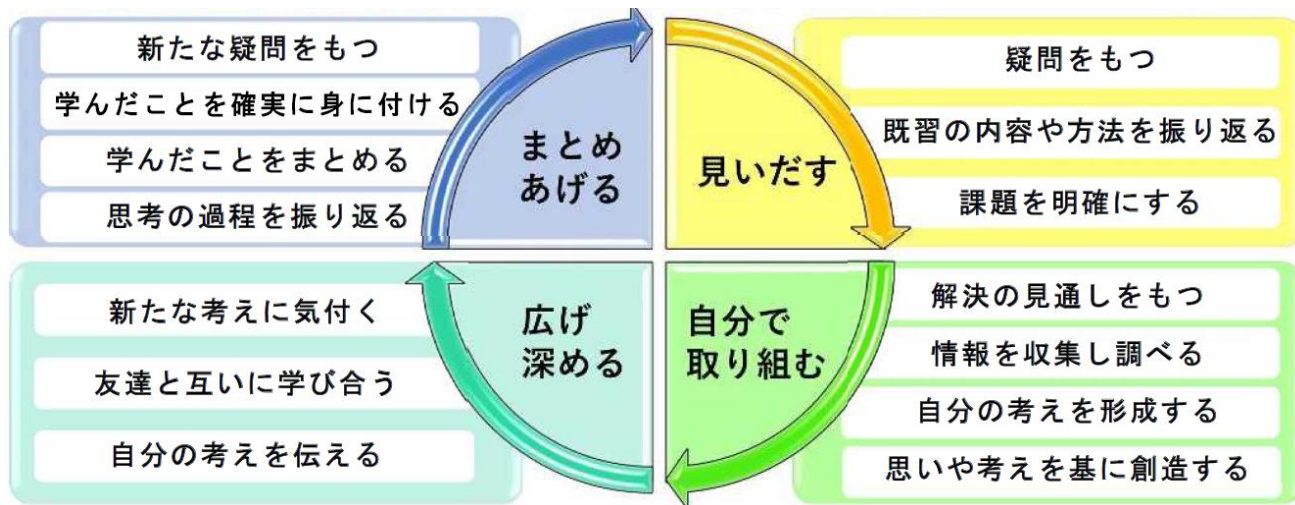
実践モデル
プログラムって
何ですか？

千葉県教育委員会が作成した**授業づくり**
の**一つのモデル**です。

主体的・対話的で深い学びを実現し、児童
生徒が、思考し、表現する力を高めることを目
指します！



「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



単元計画や1単位時間の授業計画の中に、意図的・計画的に
「見いだす」「自分で取り組む」
「広げ深める」「まとめあげる」
の4つの過程を位置づけ、授業づくりをすることが大切です。



実践モデルプログラム
一括ダウンロード



さっそく授業改善を進めたいけれど…
まずは何から始めたらいいのかな。

そうですね。ぜひ、次の2点は大切にしてもらいたいです。

- ① 「目標・課題」の明確化
- ② 「まとめ・振り返り」の実施

セルフチェックシートを、活用してみましょ！



「授業改善のためのセルフチェックシート」は、先生方が授業を振り返り、自らの課題を意識することができるよう、実践モデルプログラムに基づいて、南房総教育事務所が独自に作成したものです。

授業改善のための「セルフチェックシート」R4～			
月 日 ()	年 組	指導者	
教科	単元名		
4：十分できた 3：概ねできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			
授業前	指導者は、本時（本単元）を通して資質・能力が身に付いた児童生徒の姿をイメージしましたか？	4・3・2・1	
	<改善のヒント> ・本時（本単元）で目指す児童生徒の具体的な姿を、目標に基づいて想定する。 ・児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解する。 ・児童生徒に資質・能力が身に付いたか評価する手立てを準備する。		
本時で行った過程に	児童生徒が自ら問いを見いだしたり、解決していく課題を明確にしたりしていませんか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・児童生徒が自ら疑問をもち「主体的な学び」を実現することができるような資料や発問を準備する。 ・本時の学習の手助けとなる既習事項を確認する。		
振り返り	児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることができましたか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・課題を解決する見通しがあるように、既習の内容との相違点や学習のめあてを児童生徒とともに確認する。 ・「見方・考え方」を働かせながら必要な情報を収集して調べることができるよう、ICT環境や資料等を用意する。 ・「深い学び」が実現できるよう、取り組む時の視点や思考の進め方を指導する。		
まとめ	児童生徒が多様な考えを理解したり、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりしましたか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・自分の考えを根拠をもとに伝えられるよう、伝えるときに意識すべきことを指導する。 ・「対話的な学び」が実現できるよう、児童生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等の場面を設定する。 ・知識を相互に関連付けたり、新たな考えに気付いたりできたか確認し、個に応じた助言をする。		
振り返り	児童生徒が学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもちましたか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・学習活動や思考の過程を振り返り、「自分の言葉で学習のまとめを書く」場面を設定する。 ・学んだことを確実に身に付けるために、練習問題に取り組む。 ・「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすかを考える場面を設定する。 ・学習活動を次につなげて「主体的な学び」が実現できるよう、新たな疑問をもつような発問をする。		

「目標・課題」の明確化

授業を計画する際に、まず考えたいのは、「どんな活動をするのか」ではなく、児童生徒に「どんな資質・能力を身に付けさせたいのか」ということです。「どんな活動をするのか」は、資質・能力を身に付けさせるための手段です。学習後に、どんなことができるようになってほしいのか、児童生徒のゴールの姿を想定して、目標・課題を明確化することが大切です。

「まとめ・振り返り」の実施

学習活動を行った後は、児童生徒が自分の学習状況を理解することが大切です。まとめ・振り返りを確実に実施しましょう。本時の学習で、何が分かり、できるようになったのか、目標は達成できたか、課題は解決できたか、次の学習につなげることができるかなど、自分の学習を振り返らせます。そのための時間を確保し、児童生徒自身のことばでまとめさせることに留意しましょう。

また、児童生徒のまとめ・振り返りを活用して、自身の指導を振り返り、改善点を見いだし、次時の指導へとつなげましょう。

実践モデルプログラム、セルフチェックシートを活用して、授業改善に取り組んでみます！



セルフチェックシートのダウンロードはこちらから！



授業改善のための「セルフチェックシート」R4～をご活用ください！

管内小中学校において実施した「令和5年度教育活動等に関するアンケート」の結果、昨年度の「セルフチェックシート」の活用率は小学校で91.7%、中学校で96.7%でした。

今年度も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、「セルフチェックシート」R4～をご活用ください。